専任集落支援員だより

Vol.6

次世代定住課　TEL (67) 2705

■集落には「楽しい」がある！ 住民発案のイベントが開催されました

2月11日、下田区で高菜の収穫・漬け込み体験会が開催されました。当日は天候に恵まれ、村内外から多くの参加者がありました。下田区では以前から地域再生のための話し合いの場「下田はどう会!?」を設けて地域活性化に取り組まれており、今回のイベントもその一環として開催されました。

体験会では参加した子どもたちも大喜びで高菜を収穫。お昼ご飯には下田区の皆さんがいろいろな味のおにぎりや漬物を準備し、参加者に大好評でした。

お腹がいっぱいになったところで塩もみの作業に移り、桶に次々と高菜を漬け込みました。予定していた以上の収穫量で、無事イベントを終えることができました。参加者の皆さんは今回漬け込んだ高菜漬けのほか、畑で採れた野菜や去年漬けた古高菜をお土産に持ち帰りました。

初めての試みではありましたが、参加者や下田区の皆さんが楽しく過ごされ、今回のイベントはとても良いものであったと感じます。自分たちがやりたいことを実現させ地域再生につなげるというのは難しいように感じますが、はじめの一歩を踏み出すことで何かが変わり始めると思います。「集落を変えるきっかけが欲しい」とお考えの方は、ぜひ、次世代定住課までご相談ください。さまざまなご支援をいたします。

（坂本）

地元の「先生」に教えてもらいながらの収穫です

お昼ご飯は参加者全員で美味しくいただきました

南阿蘇村 地域おこし協力隊通信 vol.30

『袴野懇談会と地獄温泉訪問』開催

2月16日、地獄温泉（袴野地区）のエントランス棟の上棟式に合わせて袴野懇談会（第2回）を開催しました。地区の若者（はかまの会）と企画し、地区住民や震災前まで住んでいた方、震災後から地区を支援して下さっているボランティアの方々に声を掛けさせて頂きました。当日は、公民館で河津社長から地獄温泉の近況を聞きながら懇談した後、上棟式に参列しました。この日は、雨風が強く非常に寒かったのですが、昨年11月に完成した「たまごの湯」と「元の湯」で体の芯から温まることができました。4月のレストラン再開時に第3回を計画中です。

（被災集落の再生関連業務担当　大田）

村の交通対策への取組み

地域おこし協力隊となって1年9か月が過ぎ、この間ずっと村の交通対策としての最善策を探ってまいりました。現時点では、「住民自身が、住民および観光客の移動を助ける」という活動が、この村の移動ニーズに合っているのではないかという結論に至りました。

地域における移動手段の確保のための仕組みとして、「自家用有償旅客運送」というものがあります。これは、バス、タクシーのみでは十分な移動サービスが提供されない過疎地域などにおいて、住民などの日常生活における移動手段を確保するため、国土交通大臣の登録を受けた市町村、NPOなどが自家用車を用いて有償で運送する仕組みです。実際に導入するには、自治体が国家戦略特区の指定を受けることが必要となります。

今後、村内を循環している南阿蘇村乗合タクシーの現状と課題を調査し、村民の皆さまが利用しやすい公共交通の整備に取り組んでまいります。

（交通対策プロジェクト担当　小川）